

手を取り輪になり、 みんなで地域を支え合う

■長野県：社会福祉法人まるこ福祉会

グラフ21

撮影＝藤田政明
取材・文＝編集部



社会福祉法人まるこ福祉会は、長野県上田市丸子地域を拠点として、障害のある人の暮らしを支える福祉サービスを展開している。加えて2016（平成28）年には、地域の誰もが利用できる交流サロンを施設内に開設。ボランティアグループと協働で運営しながら、地域に開かれた福祉拠点をめざしている。地域住民と手を携えた福祉サービスの取り組みについて取材した。



まるこ福祉会がある長野県上田市丸子地域は、千曲川の源流となる依田川が流れ、豊かな自然に恵まれている。「あったか空間きらり」は親しみやすい外観。喫茶コーナーは10時から16時まで開いており、地域住民が集う憩いの場となっている



「コーヒーを出すなど給仕的なことをしていますが、いちばんの仕事はお客さんの話し相手になることです」と語るボランティアの男性は週に2、3回ほど参加。1回の参加ごとに「ぐらんまるしえ」でのみ使えるチケットが配られる。多くのボランティアが客としても訪れる。パンを買うと無料でセルフサービスのコーヒーが楽しめる



お昼休みの時間になると、コーヒーチケットとマイカップを手にした「きらり」の利用者が訪れ、ボランティアや地域の人とも言葉を交わしながら、憩いのひとときを過ごしている



就労継続支援B型事業所でもある「ぐらんまるしえ」のパンは、安くておいしいとあって人気が高い。ランチタイムの忙しい時間帯は、利用者の厨房スタッフも給仕サービスを手伝う





作業前の朝礼ではラジオ体操の後、目標や合言葉を唱和したり、歌うなどしてみんなで心を通い合わせる

「きらり」は、スーパーマーケットの建物を再利用した広々とした空間。理事長のデスクや事務所と作業所の仕切りもなく、利用者は事業所内を自由に行き来している



朝は看護師の職員による血圧測定なども行われる。利用者の様子を気かけながら、心身の健康にも目を配る



隣接する「大樹」では、3つに分かれたユニットごとに「きらり」の利用者が担当して、床やトイレの清掃作業を行う。ベテランの利用者は若い人の指導も行っている



企業から委託されたジャムのラベル貼り作業。曲がらず真っすぐになるよう、一つひとつ丁寧に貼りつけていく



小袋に乾燥剤を入れる作業、クッキーの袋詰めなど、職員に見守られながら利用者が作業をすすめる。手づくりクッキーはおいしいと評判。地元産のクルミをふんだんに使ったサブレやクッキーが人気だ



指定管理者として上田市から運営を任されている上田市丸子物産館「花風里」^{はなのかざり}。眺めのよい丘の上に建ち、店内ではコーヒーやランチを提供するほか、厨房では施設内外で販売するクッキーをつくっている



バターと砂糖を混ぜて白くなった頃合いを見計らい、卵や小麦粉を加えクッキー生地をつくる。長年、生地づくりを担当している利用者は慣れた手つき。法人では利用者の好みや特性に合わせて働く場を提供している





小袋に乾燥剤を入れる作業、クッキーの袋詰めなど、職員に見守られながら利用者が作業をすすめる。手づくりクッキーはおいしいと評判。地元産のクルミをふんだんに使ったサブレやクッキーが人気だ



指定管理者として上田市から運営を任されている上田市丸子物産館「^{はなかさり}花風里」。眺めのよい丘の上に建ち、店内ではコーヒーやランチを提供するほか、厨房では施設内外で販売するクッキーをつくらしている



バターと砂糖を混ぜて白くなった頃合いを見計らい、卵や小麦粉を加えクッキー生地をつくる。長年、生地づくりを担当している利用者は慣れた手つき。法人では利用者の好みや特性に合わせて働く場を提供している



「大樹」は定員29人のアットホームなつくり。さくら通り、いちよう通り、くぬぎ通りと名づけた3つのユニットにそれぞれキッチンとダイニングがあるほか、中心には大勢で集まれる交流ホールがある



取材の日、「大樹」の交流ホールでは上田市にあるロゼッタシャンソン教室のシャンソン・コンサートや地域ボランティアによるハーモニカ演奏が行われた。昔懐かしいシャンソンの曲やハーモニカ演奏に、「大樹」の利用者が心地よさそうに聴き入っていた



「障害のある人と地域の人がふれあえる場をつくりたい。そんな思いでサロンを始めました。それまで閉ざされた印象だった施設がサロンによって開かれ、地域の人と施設の間によりつながりができたと思います」と語るのは、「あったかい輪」代表の白井由美子さん。サロンを訪れる人の笑顔に活動の手応えを感じている。

また、「障害のある人の生涯を支える」という理念のもと、2017（平成29）年には特別養護老人ホーム「大樹」を開所。地域の医療機関とも連携し、高齢者の暮らしを支えるシステムも整いつつある。そのほか、堆肥づくりに始まる農産物の加工、販売、消費を地域で循環させるシステムづくりや自然公園の整備を目的としたクヌギの植林など、地域おこしの活動にも積極的だ。地域活性化に力を入れる法人の姿勢について、理事長の柳澤正敏さんはこう語る。

「社会福祉法人の使命は、地域福祉と考えています。障害の有無にかかわらず、誰もが幸せに暮らせる共生社会をめざして、地域の方と手を携えてあゆみたいと願っています」